

未来を切り拓く力と心を育てる

起業家教育実践事例

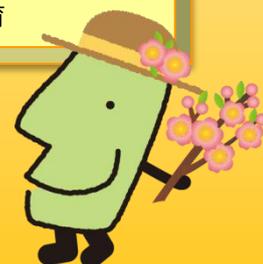


◇◇◇ 起業家教育の推進 ◇◇◇

子どもたちが豊かな人生を切り拓き、これからの社会の創り手となることができるようにするため、起業家精神の基盤となるマインドづくりの推進を目的として、平成 30 年度から令和 2 年度の 3 年間、県内 3 つの長期実践モデル校を中心に「子どもベンチャーマインド育成事業」を行ってきました。本リーフレットでは、地域の特性や学校の規模を最大限に生かした特色ある実践とその成果を紹介します。

起業家教育…起業家精神（チャレンジ精神、創造性、探究心等）と起業家的資質・能力（情報収集、分析力、判断力、実行力、リーダーシップ、コミュニケーション力等）を有する人材を育成させる教育

令和 3 年 3 月
山形県教育委員会



ふるさとを愛する子どもを育てるために

寒河江市立高松小学校

本校は、地域の少子高齢化が進み、10年間で児童数が3分の1（令和2年度97名）に減少している。本地域の将来、地域の活性化を考えたとき、小学校時代からふるさとのよさや魅力に触れる機会をつくり、郷土愛を育むことで地域の次代の担い手としての「未来を拓く人材」を育てることが大切であると考えます。

<実践校における本事業の目的>

高松地区では昔から農業に従事する家庭が多い。特に果樹栽培や米作りが盛んで、谷沢梅などの特産物もある。農業従事者の高齢化が課題であるが、壮年世代や若年世代が今後の農業の在り方を考えて活動する組織や、保護者世代を中心に様々な職種の事業主が集まって交流している組織があり、地元を活性化しようという動きもある。

このような特徴を生かし、自分たちが生活している地域の自然や産業・職業に目を向け、地域の人々と交流し現場で働く人たちから直接学ぶ経験を通して、社会との関わりをもつことは、子どもたちがこれからの生き方を考える上で貴重な経験となる。

本校児童は「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦すること」にやや課題が見られる。そこで、これまで実施してきた内容を一歩進め、自分たちが立てた目標に対して進んで取り組み、失敗を恐れずに挑戦できるような活動を取り入れていく。体験的、探究的な活動を通して、まとめ・発表・ふり返りを行いながら、情報収集力、分析力、判断力、コミュニケーション力等の起業家的資質・能力を育てていきたい。

<実践の概要>

4年 「谷沢梅 PR 大作戦」

- 地域の特産物である谷沢梅を題材にした体験活動を通して地域への理解を深め、生産・加工・販売の過程を体験する。

5年 「米作り体験と販売」

- 米作り、調べ学習、販売体験学習を通して、地域への理解を深めるとともに、情報収集活用能力やコミュニケーション能力を高める。

<具体的な実践内容>

4年 「谷沢梅 PR 大作戦」

4月～6月 学校園にある4本の梅の木観察

7月 梅の実収穫、梅の軸取り、下漬け、紫蘇漬け、梅干し加工依頼

～熟成3ヶ月～

10月 梅干しの完成 梅の先生の出前授業



<山形新聞2020年12月27日>

- 11月 梅干し販売に向けた話し合い・準備（のぼり、ポスター、チラシ作り等）
 谷沢梅キャラクターデザイン「梅田梅男」、販売価格設定
 梅干しのパック詰め、梅干し販売（地元企業と連携）
- 1月 売上金を日本赤十字社へ（学校で） テレビ局・新聞社取材
- 2月 梅を用いた商品企画（地元企業と連携）・学習のまとめ・発表

5年 「米作り体験と販売」

- 5月 田植え（コシヒカリ） 北陵果樹研究会3名の指導を受けながら活動
- 6月～8月 生育観察と米についての調べ学習・まとめ（Wordで作成）
- 10月 稲刈り（手刈り） 北陵果樹研究会2名の指導
 商品販売計画・話し合い
 （キャラクター作り「運米（うんまい）」「福お米」、パッケージデザイン、
 チラシ・のぼり旗・看板作り、店舗計画、値段設定、商品の種類等）
 6年生からアドバイス（のぼり旗・チラシのデザイン等）
 米の袋詰め（2kg/5kg）
- 11月 道の駅で米販売
 商品販売についての講話
 （道の駅代表者より）
 販売のまとめ、売上金の使用計画
 収穫感謝祭計画・準備
- 12月 収穫感謝祭
 （米作り学習発表と指導者3名招待）
 活動の発表（パワーポイント作成）
- 1月 売上金の一部を日本赤十字社へ（学校で） テレビ局・新聞社取材



<11/11 道の駅で米販売>

- この事業を通し、本校児童の課題だった「失敗を恐れず挑戦する力が付いた」と感じる児童が4年生では92%、5年生では100%と、目標（85%）を上回ることができた。また、他のアンケートの結果からも、地域への愛着をもち、起業家精神を身につけることができた。
- 地域人材を大いに活用した関わりをもち、地域、企業と連携して取り組むことができた。また、起業家との交流を通し、苦労や工夫を体感しながら、生産・販売・流通について理解することができた。
- 今後の学習をコーディネートする人材を決め、相談・連携・サポートできる体制をつくっていきたい。
- 3年間の本事業の実績を踏まえ、地元の企業と連携しながら子どもたちのアイデアを形にして発表するなど、学校の特色ある教育活動として位置づけ、今後も地域を考える学習として定着・発展させていきたい。

町の特産物を使った商品開発・販売活動を通じた起業家体験

金山町立金山小学校

本校は、石堤を流れる山水に鯉が泳ぐ「金山大堰」やイザベラ・バード記念碑がある「大堰公園」が近くにあり、豊かな環境に恵まれている全校児童165名の学校である。有名な「金山杉」を始め、町には特産物が数多くあり、子どもたちの郷土愛を育むためにも、生活科や総合的な学習の時間を活用しながら、町のよさに触れさせている。

＜実践校における本事業の目的＞

本校では、発達段階に即した目指す姿を明らかにしながらキャリア教育に取り組んでいるが、全教育活動を通して取り組む範囲の広さから、子どもたちの育ちを実感しにくいという課題もある。総合的な学習の時間では、金山中学校の創郷学習との関連を図り、金山町を素材とした地域学習に取り組んでいる。町の産業や特色を素材としながら起業家教育へと発展させる学習を子どもの思いに沿いながら実践し、地域の様々な方々との関わりを通して自分たちのプランを実現していく活動を通して、起業家教育がねらう情報収集力、分析力、創造性、チャレンジ精神、実行力などを総合的に身に付けることを目指していく。

＜実践の概要＞

金山町の産業や特色を生かし、3年生から6年生が「食」や「金山杉」をテーマにして、総合的な学習の時間の単元に位置付けて取り組んでいる。

3学年：「地元野菜を調べよう」

4学年：「落花生を調べよう」「落花生で商品開発をしよう」（令和2年度重点学年）

5学年：「金山杉について調べよう」「金山杉を活用した製品開発・提案」（令和元年度重点学年）

6学年：「町の課題発見と改善案の提案」

＜具体的な実践内容＞ ～令和2年度 第4学年の実践～

- 第4学年起業家教育のテーマ「落花生の栽培・商品化をしよう」への課題意識を喚起させるため、金山町の新しい特産物としての落花生にかける町民の思いに気づかせる。
- 落花生の特徴や栽培方法についての学習、落花生の形と風味を生かした商品開発、試作・試食を繰り返しながらの商品化を行う。
- 仲間と落花生を調理したり、売り場を準備したりして商品の販売を体験する。

(1) 第1回「ビーナッツ教室」・種まき 5月26日（火）

落花生の栽培を始めるにあたり、(株)でん六の豆類研究課の倉田大輔係長さんに落花生の基礎知識、栽培方法等についてお話をいただいた。

(2) 落花生の世話

- ① 鳥害を未然に防ぐ方法を児童が考え、鳥が怖がる猛禽類や目玉の風船を下げ、地面に糸を張りめぐらせた。
- ② 辛い仕事である雑草取りだが、各自が取った量を計量・記録し、競い合いながら草取りを行った。

(3) 第2回ビーナッツ教室「落花生を使った商品開発について」講話

(株)でん六の倉田係長さんより、「どんな食べ方があるか」「会社で大事にしていることは」等についてご講話をいただいた。倉田係長さんのお話により、商品化についてのイメージや、活動の方向性がはっきりした。



(4) 「ピーナッツお披露目の会」見学 9月15日(火)

町のピーナッツの生産者や(株)でん六の社長さん、町長さん、町民が集まったのお披露目の会に参加した。たくさんの実がついた落花生を見たり、ピーナッツを試食したり、質問をしたりすることを通して、金山町の新しいブランドとしてのピーナッツの商品化にかける人々の思いに触れることができた。



(5) 落花生の収穫 10月7日(水)、9日(金)

地域の方から提供いただいた畑の落花生と、自分たちが育てた畑の落花生を収穫した。渡り廊下で天日乾燥を行ったが、休日に食害を受け、空き教室に移動するなど対策をしながら約4週間乾燥させた。



乾燥を終えた落花生を町の作業ハウスに運び、打莢(脱穀)作業を行う。風で落花生の選別を行う機械のしくみに興味を持ちながら、作業に取り組んだ。

(6) 商品試作・試食会

試作と試食を3回行い、児童が評価し、商品化する味を決めた。児童の希望により「バターしょうゆ」は本物のバターと醤油を使うことにした。

商品化・販売へ向けてコメントをいただくために、これまでお世話になった方々をお招きして試食会を行った。生産者代表の青柳栄一さんから、「ピーナッツ」のブランド名使用についての認定証をいただいた。

今回こげたのはたれの量だと思うから、次は火かげんに気をつけよう!



(7) 「金小ピーナッツ」販売体験 12月19日(土)

2学期最後の授業参観の場で販売体験を行った。試作と試食を繰り返し、最終的に商品化に至った「塩こんぶ」「塩コショウ」「塩カレー」「ココア」「バターしょうゆ」「焼き肉味」の6種類を販売した。チャック付きのビニール袋に詰め、電子計量器で計量、生産協議会から認可していただいた「金小ピーナッツ」のラベルを貼り、1袋70g入りで100円で販売した。密を避けるなどの対策をしながら販売し、売上金額は20,400円、材料代を差し引いた「利益」は9,024円だった。



【活動の成果】

- 落花生を育てる際には、世話をを行う責任の範囲を明確にしたことによって、自分の仕事として進んで活動する姿が見られた。目標が何かを知り、進んで働くことのできる児童の成長が見られた。
- 落花生の栽培・収穫・調理・販売活動の全てが児童にとって初めての経験であり、場面ごとに解決すべき課題が出てきた。特に、商品の試作の場面では、商品として質を向上させるためにあれこれ試しては改善することができ、貴重な経験となった。

- 町の特産物について調べる学習を通して、その歴史や苦労・人々の思いを知ることができ、児童の郷土理解・郷土愛を深めることにつながった。
- 自分たちが調べても分からない課題については外部の詳しい方に教を請い、課題解決を図った。その後、新たな課題が生じても諦めず再チャレンジし、友達と知恵を出し合い協力して高みをめざすたくましが育った。

真室川町の伝承野菜は おいしさ 楽しさ 無限大！

真室川町立真室川あさひ小学校

本校は、清流と緑に囲まれ、北西に烏海山を臨む風光明媚な、全校児童67人の学校である。9年前に3校が統合して本校が開校したが、童唄や昔語り、平枝番楽と、それぞれの地区の伝承文化が今なお息づいている地域である。また、中村湿原に生息している八丁トンボの観察や炭焼き体験等、環境教育や森林学習にも取り組んでおり、地域の自然や人々との関わりが、郷土愛の醸成につながっている。

<実践校における本事業の目的>

本校では、各教科、特別活動、総合的な学習の時間において郷土愛を育むためのキャリア教育を実施している。地域の自然や人とのかかわりが郷土愛の醸成につながっているが、自ら問いを持ち、進んで課題を解決するために必要な創造性や実行力等の育成が課題である。本実践を通して、自分たちで商品開発する喜びと意欲の高揚、困難を乗り越える力も培っていききたい。

<実践の概要>

5、6年生の総合的な学習の時間の実践

3年間の共通実践

- 甚五右衛門芋について、栽培農家の方の指導を受けながらの栽培と観察、収穫
- 甚五右衛門芋等の伝承野菜を使った商品の開発、販売活動計画の立案
- 商品化や販売の工夫や思いを学ぶため、地元菓子店等を見学
- 甚五右衛門芋等の伝承野菜を使ったレシピの考案と試食品の試作
- 起業家精神と起業家的資質・能力についてのアンケート実施
- 新聞やプレゼンテーションによる発信

令和2年度実践

- 「チャレンジ!お菓子の株式会社」という体験学習で会社の仕組み等を学習
- 最年少野菜ソムリエプロの「緒方湊」さんとの交流と販売活動
 - ・ 湊さんと全校児童との交流会及び講演会
 - ・ 6年生は、開発レシピをメニューにしたレストラン出店
 - ・ 5年生は、伝承野菜を使ったスイーツ開発、商品販売

<具体的な実践内容>

令和元年 5月～7月 伝承野菜の栽培・農家の方との交流

- ◆ 起業家育成講座で、仕事を自らに関係のある事柄として考え、創造性やチャレンジ精神等の起業家精神を学んだ。
- ◆ 地元栽培農家の佐藤春樹さんの畑を見学し、指導を受けながら、学校の畑で栽培体験を行った。
- ◆ 勘次郎胡瓜の加工業者の高橋伸一さんの工場を見学した。

9月 初めての販売体験

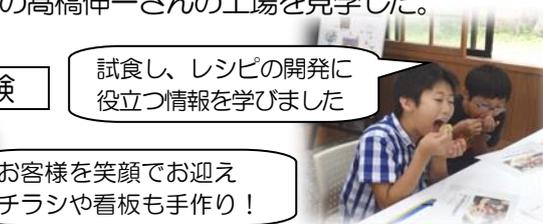
試食し、レシピの開発に役立つ情報を学びました

お客様を笑顔でお迎え
チラシや看板も手作り!

- ◆ 学校で収穫した「勘次郎きゅうり」は、生のきゅうりの他に、業者にピクルスに加工してもらい販売した。手作りレシピもお客様に渡しながらか試食を進めた。

一杯のコーヒーが飲めるまでを例にあげ、世界は誰かの仕事で成り立っていることを学びました

「甚五右衛門芋」以外の伝承野菜も栽培



10月 町の収穫祭 2回目となる販売体験

- ◆ 学校の畑で収穫した甚五右衛門芋を真空パックに加工してもらい販売。また、地域のパン屋さんに加工してもらった甚五右衛門芋フォカッチャも販売。



チラシの効果もあり、わずか17分間で完売。大好評でした！

1月 最年少野菜ソムリエプロ「緒方湊」さんへお手紙

- ◆ 湊さんの一番好きな野菜が「甚五右衛門芋」ということを知った子どもたち。一緒に交流したいと手紙を出すと、返事をもらい交流が決まった。



令和2年 6月 伝承野菜の栽培・株式会社の模擬体験

- ◆ 「チャレンジ！お菓子株式会社」という学習で、お菓子の箱を製作し、投資してもらうためにプレゼンテーションを行った。

6月～8月 地元お菓子屋さん訪問・湊さんへ送る伝承野菜を販売

- ◆ 伝承野菜を使ったお菓子を開発したいと考え、地元のお菓子屋さんを訪問した。



スイーツの開発に生かすヒントをいただきました

9月 伝承野菜販売体験

- ◆ 伝承野菜の魅力が伝わるようなのぼり旗や看板を作成した。



ここで学んだのは、「おもてなし」の心！



10月 最年少野菜ソムリエプロ「緒方湊」さんとの交流会 レストラン、販売体験

- ◆ おもてなしのレベルアップをめざし、新しいアイデアを出し合いながら販売の準備を行った。湊さんと一緒に呼び込みをし、レストランも販売もすべて完売した。



5年生が考えた伝承野菜のマスクットキャラクター



身近にある伝承野菜の素晴らしさを教えてくださいました



6年生が考えたメニュー3品 特に「甚五右衛門芋の肉巻き」は子どもたち絶賛の一品



5年生が開発。地元お菓子屋さんへ商品化を依頼した「黒五葉ロールケーキ」



- 活動後のアンケートから、伝承野菜を広める活動を通して、活動前より実行力やコミュニケーション力、チャレンジ精神の向上を自覚した児童が多く、本事業でめざす起業家精神の向上につながった。
- 多くの人々との温かいつながりから、おもてなしの心、笑顔が広がった。また、地元の伝承野菜に誇りを持ち、今後も伝え広めようという児童の意識が高まった。

★「起業家教育」のポイント★

- 1 外部の教育資源（地域人材・企業等）の活用
- 2 外部連携のためのシステムづくり（コミュニティ・スクール等の活用、コーディネーターとの連携、地域連携担当教員の位置づけ など）
- 3 教育資源のリストアップと共有（5W1Hを整理して、学校全体で共有・引継ぎ）
- 4 子どもの本気を引き出す学習活動の展開（「自分事」「ワクワク感」「ずれ」などを大切にした授業づくり）



◇◇◇ 短期体験（社長体験・講話）実施校 ◇◇◇

◆企業への訪問による社長体験等の実施◆

【平成30年度】

朝日町立大谷小学校 山辺町立作谷沢小学校 酒田市立平田小学校

【令和元年度】

朝日町立大谷小学校 山辺町立作谷沢小学校 東根市立大森小学校 高畠町立亀岡小学校
川西町立玉庭小学校 鶴岡市立あさひ小学校

【令和2年度】

東根市立大森小学校 高畠町立亀岡小学校 鶴岡市立あさひ小学校

◆起業家・社長等による講話等の実施◆

【平成30年度】

寒河江市立寒河江小学校 寒河江中部小学校 南部小学校 西根小学校

柴橋小学校 醍醐小学校 白岩小学校 幸生小学校 三泉小学校

朝日町立宮宿小学校 大谷小学校 西五百川小学校

東根市立神町小学校 高崎小学校 大富小学校 大森小学校

新庄市立沼田小学校

米沢市立万世小学校 南原小学校

庄内町立余目第二小学校

酒田市立松原小学校

【令和元年度】

米沢市立窪田小学校 関根小学校

【令和2年度】

米沢市立西部小学校 三沢西部小学校

